

だだっ子 ヨナ

中心聖句 「救いは主にある」 (ヨナ書2章9節)

第1課	「逃げ出したヨナ」	1章
第2課	「悔い改めたヨナ」	2章
第3課	「愛を知ったヨナ」	3章・4章

今年もようやく夏期学校教案が完成しました。折りをもってお送りします。昨年のアンケートに基づいて、より良い内容になるよう配慮しましたが、まだまだ足りないところがあると思います。今年も、最後に添付しているアンケートにご意見を記していただければ幸いです。幾つかの注意点を記しておきます。

一、装丁について

昨年と同じく、今年も局で印刷しました。できるだけ安価で提供したいと思つてのことです。各教会で、必要な部数をコピーしてください。特に、ワークは、個々の子どもに適切なものを選んでくださればと思います。

夏期学校は、小学生が主なメンバーになると思いますので、ワークは、1・2年生を対象にした「下級」、3・4年生向きの「中級」、5・6年生を想定した「上級」の3種類を用意しました。でも学年にこだわらず、児童の力にあうものは何かを検討してください。

二、カリキュラムについて

本誌では、新約聖書を用いる機会が多いので、昨年に続いて旧約聖書から題材をとりました。ちょうど一九八六年七月の『牧羊者』に掲載されたものがありましたので、それをベースにして4人の先

生方に執筆をお願いしました。沢村五郎先生の名著『聖書人物伝』に「神のだだっ子ヨナ」の章があります。ぜひ一度、目を通してください。

今回は、「悔い改め」を中心にしています。夏期学校は子どもたちとゆつくり話ができる最善の機会です。子どもたちの心の中にある罪が示され、それを正直に悔い改めるように導いてください。

第1課は、み言葉に従わないことが罪であることを明確にしてください。第2課の学びのあとでは、ぜひ子どもたち一人一人と向き合う時をもってください。そして、正直に神様に告白することを勧めてください。口で言えない場合は紙に書かせてもよいでしょう。第3課では、悔い改めた罪は完全に赦されるという確信をもたせましょう。だだっ子のようないかなるヨナも、このことを通して、神様の絶対的な愛を知ったことを、子どもたちの心に焼き付けてください。

三、終わりに

今回の執筆担当者は、メッセージ例が高田浩二師、下級ワークが藤井正子師、中級ワークが鎌野幸師、上級ワークが和田治師です。編集は鎌野善三が担当しました。それぞれのご奉仕に心より感謝いたします。

第一課 逃げ出したヨナ（一章）

暗唱聖句

「わたしは…あなたの前に悪い事を行ないました。」 詩篇52・4

目 標

神の言葉に従わない事は罪であることを発見する。

導入

皆さんの中に、一回でも病院に入院した人がいますか。看護婦さんは、病気の人が元気になるために、お医者さんの指示通りに色々世話をしてくださいます。けれど、もし看護婦さんがお医者さんの指示に従わずに、自分勝手なことをしたり、反対に何もしてくれなかったら、その病人はどうなってしまうでしょうか。病人が良くなるためには、看護婦さんがお医者さんの指示に従ってお仕事をしてくれることが必要だとわかりますね。このお医者さんとは神様のこと、看護婦さんとは今年の夏期学校で学ぶ預言者ヨナのことです。

一、神様の命令

紀元前七六〇年ごろのニネベという町は大変でした。「彼らの悪がわたしの前に上ってきたからである」（1・2）と神様が言われたほど、もうどうしようもなく悪が満ちていたのです。どんな悪だったでしょうか。①偶像礼拝と、②流血の暴力と、③汚らわしい不道德（ナホム1・14、ヨナ3・1、4参照）などでした。

神様は、「こういう罪惡を「主に対する惡事」だと言っておられます（ナホム1・11）。お父さん

やお母さんの言いつけに背いたら叱られるのが当然のように、こんなニネベの町に向かつて神様がお怒りにならないはずがありません。そこで神様は、アミッタイの子ヨナという人に、「立つて、あの大きな町ニネベに行き、これに向かつて呼ばわれ」と命令されました。「この町は神様によって裁かれるぞ」という意味です（3・4、10）。神様は、どんなに大きな町であっても、どんなに有力で影響力があっても、罪があるなら、必ず裁かれます。もし罪を離れないなら、その罪人を町ぐるみで裁かれるのです。

二、命令にそむいたヨナ

ところがヨナは、「主の前を離れて…タルシシへ行こうと船に乗りました。これは、ヨナが神様の命令に従うのがいやで、逃げだしてしまったことを表しています。

ヨナは、あとで「わたしはヘブル人です。わたしは海と陸とお造りになった天の神、主を恐れる者です」と告白するほど、神様を強く信じていました。またお仕えもしていました。でもどうしたのでしょうか。神様のご命令に従わないばかりか、反対方向へ逃げてしまったのです。

「ヨナ」とは「はと」という意味ですが、彼は臆病で、いざという時になって弱気になったのでしょうか。あるいは、ニネベの人々は悪い人たちだから、神様に裁かれても当たり前だと考えていたのでしょうか。または、ニネベまで行くのは面倒くさいと思ったり、自分には関係ないと思ったのでしょうか。色々なことが考えられますね。

三、そむきの結果

このようなヨナの態度を見られた神様は、非常にお怒りになりました。神様の言葉に従わないことがそが罪の本質だからです。そして、大変なことがおこりました。「時に、主は大風を海の上に起こされたので、船が破れるほどの激しい暴風が海の上にあつた」のです。

この出来事は、ヨナの不従順と自分勝手な行為に対して、神様がどんなに激しく怒られたかを良く物語っています。ヨナの罪は大きくて、その悪い影響は、船に乗った他の人たちにまで及んでしまいました。船員さんもお客さんも、命からがらの大騒ぎです。神様の言葉にそむくなら、その結果、自分が苦しむだけでなく、周囲の人々も苦しむことになってしまいます。

結論

今、私たちは、神様の声を聖書の中から聞くことができます。毎週教会学校で聞く聖書の言葉にちゃんと従っていますか。例えば、「父と母を敬え」という言葉に従っていますか。あるいは友だちをいじめている子に、「意地悪しちやダメだよ」と注意できますか。難しいですね。

自分勝手な理屈をつけて知らぬ顔をしたり、あるいは、「そんなの嫌だ」と思うのは、神様に対する大きな罪です。神様は、かならず罪を裁かれます。もし罪があるなら、今日の暗唱聖句のように、「わたしは、あなたも前に悪い事を行ないました」と正直に告白しましょう。夏期学校は、それをするにふさわしい機会です。

第二課 悔い改めたヨナ(第二章)

暗唱聖句 「わたしは雪よりも白くなるでしよう。」 詩篇51・7

目標 罪を悔い改めるなら、神はそれを赦してくださいることを発見する。

導入

皆さんは「裁判所」を知っていますね。交通事故や泥棒や、その他もつともつと複雑で難しい事件を裁くところです。どんな事件でも、人は自分の悪かったことを素直に認めようとしないので、裁判所で、正しく裁かねばなりません。悪いことをしたとしても、それを正直に認め、「ごめんなさい」と言うなら、もつと住みやすい世の中になるのではないでしようか。

一、罪の告白

大嵐になった海で、船員たちは船が沈没してしまわないように必死になっていました。そして、だれがこの災難の原因になっているのかくじで決めようということになったのですが、そのくじはヨナに当たってしまいました。どんなにがんばってみても、ヨナは神様の手の中から逃げ出すことはできず、その罪は暴露されたのです。ヨナは観念して、「わたしを取って海に投げ入れなさい。わたしのせいです」と正直に告白します。彼は、自分は罪を犯したので、おぼれて死んでしまってもよいと考えたのでしよう。ヨナが海に投げ込まれると、海の荒れるのがやんでしまいました。

私たちにも、何か隠している罪はないでしようか。でもどんなに隠しても、神様はご存じです。必ずいつかはばれてしまいます。ですから、隠すのはやめましよう。悪かったことをありのままで神様に告白しましよう。そのとき、神様は不思議なことをなさいます。

二、悔い改め

海に投げ込まれたヨナは、不思議なことに、ちようどそこに現れた大きな魚に飲み込まれてしまいました。その魚は、神様が備えてくださったものでした。神様は、罪を犯したヨナさえも憐れんで、その命を救ってくださったのです。このことに気づいたヨナは、魚の腹の中から「その神、主に祈って」言いました。

「わたしは悩みのうちから主に呼ばわると、主はわたしにゆえられた。」

わたしが陰府の腹の中から叫ぶと、

あなたはわたしの声を聞かれた。」

ヨナはこの災難の原因は自分にあることを認めましたから、黙って海に投げ入れられました。一度は神様の声に従わないで逃げ出したのですが、その罪を悔い改めて、「主に呼ばわり…叫ぶ」ことを始めたのです。「神様、わたしを助けてください」と叫び、祈ったのです。

私たちにも、この悔い改めが必要です。神様が罪を犯した者をすぐに裁いて滅ぼされないのは、その人が悔い改めるのを待っておられるからにほかなりません。この夏期学校の期間中に、自分の罪を認めて悔い改めましよう。

三、悔い改めの結果

神様を全面的に頼り、助けを求めたヨナは、たといまだ魚の腹の中にいても、

「わたしは感謝の声をもって、あなたに犠牲をささげ、わたしの誓いをはたす。」

救いは主にある」と祈ることができました。

そして、神様はその祈りに答えて下さいました。神様が魚に命じられると、不思議なことに魚はヨナを陸に吐き出したのです。

どんな大きな罪を犯していても、本心からそれを悔い改めるなら、神様はそれを赦してくださいます。そして、罪の結果の苦しみから救ってくださるのです。昔した悪いことを思い出して、苦しくなることはありませんか。今日、それを悔い改めましよう。その時、あなたの心は雪よりも白くなり、大きな喜びが生まれてきます。

結論

今でも、真の神様は、罪を悔い改めるなら、どんな人でも例外なく赦してくださいます。そしてその人の心に、本当の喜びと平和をくださるのです。それは、イエス様が私たちの罪のために、魚の腹ではなく、陰府に下ってくださった、私たちの受けるべき罪をすべて身代わりに受けてくださったからです。罪を認めて悔い改めた人々は、大人でも子どもでも、同じように神の国に生きることができます。真っ黒だった心が、イエス様の血によって、雪のようにまっ白くなるのです。嬉しいですね。「救いは主にある」という言葉は、昔も今も、本当です。

第三課 愛を知ったヨナ (第三・四章)

暗唱聖句 「神の受け入れられるいけにえは砕けた魂です。」 詩篇51・17

目標 神は、悔い改めた人々を決して滅ぼされないことを発見する。

導入

私たちには、「執念深さ」というとても嫌な性質がありますね。喧嘩をした友だちと一度は仲直りしても、本当はなかなか赦せないとか、いつまでも覚えていて悔しい気持ちになるとか、また喧嘩をするとか。この嫌な性質をスッキリしたいと思いませんか。実はこれを解決するのが、本当の愛なのです。ヨナはこの愛を経験しました。

一、二度目の命令

罪を悔い改めたヨナに、神様はもう一度命令を与えられます。「時に主の言葉は再びヨナに臨んで言った」と書かれていますね。一度罪を犯してしまっただけですが、神様は彼を完全に赦して回復を与えられたのです。そして、「立つて、あの大きな町ニネベに行き、あなたに命じる言葉をこれに伝えよ」と命じられました。

ヨナは今度はお言葉に従います。ニネベは、一回りするのに三日かかるほど大きな町でした。その町のあちこちで、ヨナは「四十日を経たらニネベは滅びる」と叫んだのです。町の人々から変人扱いされることは覚悟の上でした。きつと、彼の声は枯れてしまっただったでしょう。

二、愛のみこころ

ヨナの真剣な叫びを聞いたニネベでは、「人々は神を信じ、断食をふれ、大きい者から小さい者まで荒布を着た」と書かれています。王様さえも罪を悔い改め、罪の生活を離れて「ひたすら神に（赦して下さるよう）に」呼ばわったのです。その結果、「神は彼らのなすところ、その悪い道を離れたのを見られ、彼らの上に下そうと言われた災を思いかえして、これ（町を滅ぼすこと）をやめに」なりました。

ところがヨナはこれを非常に不快に思い、主に祈ります。「それでこそわたしは、急いでタルシに逃れようとしたのです。あなたが災を思いかえされることを、知っていたからです。それで主よ、どうぞ今わたしの命をとってください。わたしにとっては生きるよりも死ぬ方がましだからです」と、訳の分からないことを言って、ゴネていました。まさに「だだっ子ヨナ」そのものです。彼は、自分がおぼれて死にそうになったときに祈ったことも、滅ぼされて当然の自分が神様の憐れみによって救われたことも、忘れていました。神様の愛のみこころが理解できなかったのです。

三、ヨナへの実物教育

それでもヨナは町の近くに小屋を建て、なりゆきを見きわめようとしていました。神様は、このだだっ子ヨナを、実物で教育されたのです。ある日の朝、芽を出した「とうもろこし」という植物が、ちよつと良い日陰を作ってヨナを喜ばせました。ところが次の日の朝には、そのとうもろこしがつか

り枯れてしまっています。神様が虫を用いて、そうされたのです。太陽が照り始めた時、ヨナは暑さのために苦しみ、怒って言いました。「生きるよりも死ぬ方がわたしにはましだ」と。

□ぐせのように「死んだ方がましだ」と言い出すヨナに対して、神様は「あなたは勞せず、育てず、一夜にして生じて、一夜に滅びたこのとうもろこしをさえ、惜しんでいる。ましてわたしは十二万あまりの、右左をわきまえない人々と、あまたの家畜のいるこの大きな町ニネベを、惜しまないでいられようか」と静かに諭されました。これこそが神様の本当のお心なのです。

結論

神様は、ヨナでもニネベの人々でも、自分の罪を認めて悔い改めるなら、喜んで赦してください。ヨナは「執念深い」人でしたが、神様は決してそうではありません。神様がこのような愛をもっておられることを、ヨナは、この後にわかったことでしょう。そして自分もニネベの人々が救われたことを喜ぶようになったでしょう。

暗唱聖句にある「砕けた魂」とはどういう意味でしょうか。それは、「自分は正しい人間だ。あいつは悪い人間だ」と考えるのではなく、「自分はすぐ偉そうになってしまふ。人のことを悪く言うてしまふ」と謙遜に考えることです。神様は、そんな自分の姿に気づいて、「ごめんなさい」と正直に悔い改める人を喜んで受け入れてくださいます。この夏期学校で、そのことが実際に体験できたでしょうか。

ワーク解説

【下級】

第1課 「逃げ出したヨナ」

- 質問1 単純な質問ですが、子どもたちと話を
するきっかけのものです。
- 質問2 ヨナの乗った船が嵐にあったのは、ヨ
ナが神様の言葉に従わなかったからであること、
そして、それは罪であることに気づかせます。
- 質問3 自分は神様の言葉にしたがっているか
どうか、具体的なことを聞いています。「いじめ
っ子にも神さまのことを伝える」という項目で、
ヨナの気持ちを考えましょう。他にも十戒の項目
を追加するなどして、自分の罪に気づかせましょ
う。

第2課 「悔い改めたヨナ」

- 質問1 迷路をたどると、「へいあらため」の
6文字になります。ヨナが魚の腹の中で悔い改め
の祈りをしていたことに気づかせましょう。
- 質問2 子どもたちにとっては聞き慣れないこ
の言葉の意味を考えます。
- 質問3 悔い改めとは具体的にどうすることか
を話し合います。神さまは、悔い改めた人の心を
雪よりも白くしてくださることを強調し、祈りを

導きましよう。

第3課 「愛を知ったヨナ」

- 質問1 ヨナの気持ちを考えます。神様は、悔
い改めた二ネベの人々を見て、滅ぼすことをやめ
たことを、お話の導入としてください。
- 質問2 神さまは忍耐強く、一人も滅びないよ
うに悔い改めるのを待っておられる愛の方である
ことに気づかせましょう。
- 質問3 罪を犯しても、自分の罪を認めて心か
らおわびする素直な人を、神は喜んで受け入れて
くださることを学びます。恐れしないで、正直に祈
るよう促しましょう。

【中級】

第1課 「逃げ出したヨナ」

- 罪とは何かを考えましょう。人の前だけでなく
神の前に悪いことが罪であることを伝えます。
- 人が見ていなくても神様は見えておられること、
行いだけでなく心の中も見えておられることを話し
て下さい。

第2課 「悔い改めたヨナ」

- 悔い改めることだけでなく、イエス様の十字架
を信じてはじめて罪がゆるされることを話してく
ださい。

- 4番のハートの中にそれぞれの罪を書き、その
罪を一つ一つ自分で告白しながら悔い改めの祈り
ができるように導いて下さい。2枚つながった黒

いハートの紙に罪を書き込んだ白いハートを貼り
付け、子供たち全員の罪の心を1本の十字架に負
わせてキャンプファイヤーの火で燃やしてみても
どうでしょうか。

- ① 白ハートを7-7から
せりとり
- ② 別紙黒ハートに
白ハートを貼り付け
- ③ 白ハートの中は2
黒ハートを2つにお



第3課 「愛を知ったヨナ」

- ヨナは自分が神様から赦されていることだけで
満足し、二ネベの人たちを愛する心が欠けていま
した。第2課で、全ての罪を赦していただいた子
どもたちの心の中に、他の友だちへの愛の心があ
るかどうかを一緒に考えてください。

- どんな友だちのことも愛して折れる心を神様は
喜んで下さることを伝えましょう。

(さんび 「愛をください」 友よ歌おう74番)

【上級】

第一課 「逃げ出したヨナ」

●質問1 導入のための質問。生徒がリラックスすることもねらいです。導く先生自身の失敗談を話すのも生徒の心を開くのに効果的でしょう。

●質問2 聖書をいっしょに開き、み言葉そのものから発見することが大切です。

●質問3 激しい嵐で、人々がバニックに陥っているようすを確認することにも、そのようなさつたのが主御自身であることをはっきりさせます。

●質問4 どちらかの*に○をします。そして括弧に「ヨナ」をか「自分」と書ければ良いでしょう。

●質問5 ヨナの態度に対して主が怒りを覚えられたことを実感することがねらいです。良く考えた生徒が多少ずれたことを言っても、それを大切にしてあげてください。例えば「ヨナだけが悪いのに、船に乗っている他の客まで巻き込むのはかわいそうだが、仕方がない」とか、「わたしの言うことが聞けない者は死んでしまえ」などの答えがあっても否定せず、それを生かしながら主の怒りに気付かせるように持っていきましょう。

●質問6 ここで、この課の「神の言葉に従わないことは罪であることを見出す」という目標を達成できれば理想ですが、答を押し付けられないように。次の質問で見つけても良いのです。

●質問7 暗唱聖句が生徒の個人的な悔い改めの祈りの言葉となれば理想です。でも無理をしないで第二課への期待を共有しつつ終わりました。

第二課 「悔い改めたヨナ」

●暗唱聖句 より理解を深めるために、暗唱聖句の前の句も（ ）内に入れていきます。先生方で判断していただき、（ ）内も含めて暗唱しても、そこは省いてもよろしいかと思えます。

●質問1 導入のための質問です。導く先生自身の失敗談なども必要に応じて話ながら、「なかなか汚れがきれいにならない」というあたりを十分実感させた上で、★を読み、ここではあまり深く説明しないで、質問2に移ります。

●質問2 まず、ヒントなしで、自由に答えてもらいましょう。次に★のヒントを読み、「自分が悪いと分かっていたのだから『助けてください』だけではなく、きつと『ごめんなさい。私の罪をお赦してください』とも叫んだはずですね」という具合に持っていけばいかがでしょうか。生徒によつては、いつ出れるか分からない真つ暗な魚の腹の中で、自分の心の汚れと向き合ったという、その深刻さを想像させることも、より深い悔い改めへと導くのに効果的かもしれません。

●質問3 迷っていれば、2節を示しましょう。

●質問4 ヨナが悔い改めたので、主が答えてくださったことを確認するのが質問の意図です。

●質問5 キャンプの中心聖句が、ヨナの「救われた喜びと確信」の言葉であると確認します。

●質問6 時間をかけ、各生徒の状態に応じたカウンセリングをしましょう。主イエスの十字架の血こそが救いの根拠であることを明確に教えてください。

第三課 「愛を知ったヨナ」

●質問1 「彼らの悪が主の前に上ってきた」から。もちろん生徒自身の表現でも良いです。

●質問2 参考になる聖書箇所は3・5・9。

●質問3 参考になる聖書箇所は3・10です。

●質問4 み言葉の通りに「砕けた魂（口語訳）」となります。でも大切なのは、生徒が自分の心、魂の状態を見つめ直し、自分は主の前に高ぶっているのか、砕かれているのか、どのようであるのかを、じっくり考えさせる機会とすることです。スペースの関係で、簡単にしていますが、生徒の状態に応じて、ふくらませ、深めてください。

●質問5 み言葉をいっしょに確認しましょう。

●質問6 例一衰え果てた。死ぬほど怒った。当然のことのように怒った。つばやいた。…など。

●質問7 答「悔」（あるいは「く」と「い」。後半の答え一本物の「愛」で人々を「愛」して…。

ここで、主の愛について問いかけて、生徒の中から、主の愛の大きさ・深さに対する新鮮な感動が引き出されたり、また主の愛をテーマに自由に語り合うことができれば理想的でしょう。

●質問8 主の十字架へのはつきりとした信仰に導く機会となることを意図しています。押し付けにならないように留意しつつも、たましいへの最後の切り込みのつもりで取り組みましょう。

●質問9 滅びゆく魂のために祈って、伝道したい、この思いに導くことが意図されています。ぜひ教師自身の熱い思いを証ししてください。

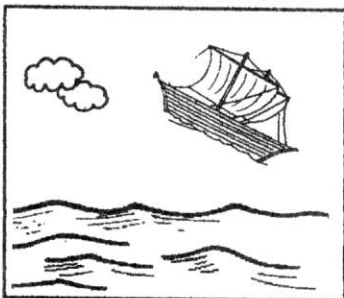
かきゅう だい か しょう
下級 第1課 にげだしたヨナ (ヨナ1章)

おほえましょう! (詩篇51:4)

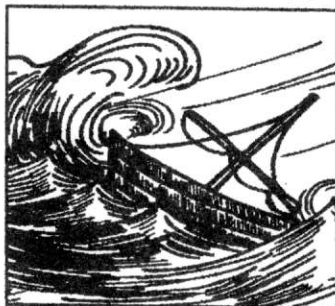
「わたしは... あなたの前に 悪いことを 行いました。」

1. ヨナさんの のったふねは、どうなりましたか?

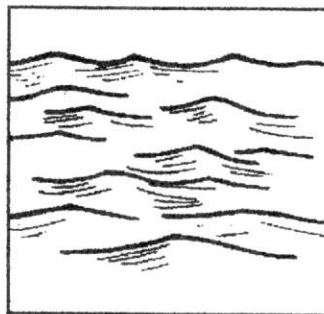
() 空をとんだ



() 嵐にあった



() しずんだ



2. それは、どうしてですか? 正しい方と 線でむすびましょう。



ヨナが
かみさまの
ことばに



したがったから

したがわなかったから

3. みなさんは、どうでしょう。あてはまる♡にいろをつけてね。

はい、よろこんで

しかたないなあ

わからないよ

イヤ!



おともだちと なかよくする



いじめっ子にも かみさまの
ことをつたえる



おとうさん、おかあさんの
いうことをきく



にちようびは教会へいく

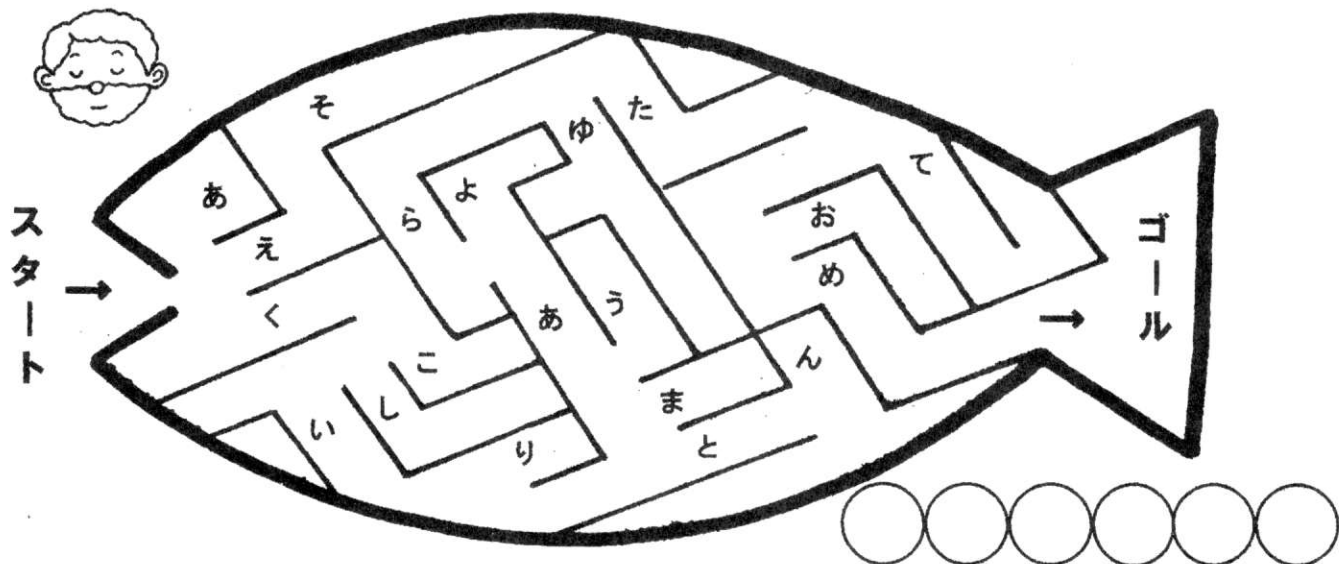


いのりましょう! 「かみさま、いつも かみさま
のことばに、したがう子どもにしてください。
イエスさまのおなまえによって、いのります。」

おぼえましょう! しへん
(詩篇 51 : 7)

ゆき しろ
「わたしは 雪よりも 白くなるでしょう。」

1. ヨナさんは、さかな 魚 なか のおなか なに の中で何をしたのでしょうか?
めいろをたどって、じゅんばんに○にもじをいれましょう。

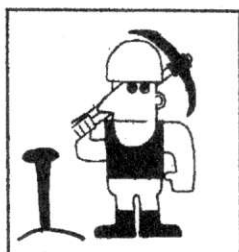


2. それはどうすることですか? ただしいものをえらんでね。

① もういちど
たべなおすこと

② くい (ふといくぎ) を
うちなおすこと

③ かみさまにおわびして
ところをかえること



3. き みなさんは、わるいと気がついたとき どうしますか?
- () わるいことをしたら、すぐにげるよ。みつからなければへいきさ。
 - () わるいことだとわかったら、すぐに あやまるよ。
 - () おなじまちがいをくりかえさないように、おいのりするよ。
 - () みんなもしてることだから、あやまらない!

いのりましょう! き 「かみさま、わるいと気がついたときは、すぐに あやまる
ことができるように してください。きたない ころ 心 ゆき を、雪 しろ のように白くしてくだ
さることを かんしゃします。イエスさまのおなまえによっていのります。」



おほえましょう!

しへん
(詩篇51:17)

かみ くだ たましい
「神の うけられるいけにえは 砕けた 魂 です。」

1. ヨナさんはどうして、かみさまにぷんぷんおこっているのでしょうか? ただしいものとせんでむすんでね。

さかなのおなかにとじこめるなんてひどいよ ●

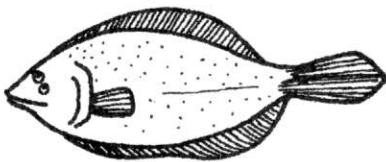
あらして、ふねがゆれて目がまわったよ ●

ニネベをほろぼすのをやめるなんて、さいしょにいったこととちがうじゃないですか ●



2. かみさまは、どんなおかたですか? ただしいことを
いっている魚をつかまえてね。

めぐみふかいかたよ



すぐにおこるんだ



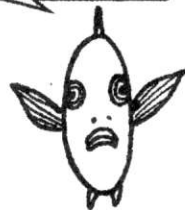
きびしいんだよ



わるいことをしたら、
かならずばつをくだすんだ



やさしいのよ



わるいことをしても、あや
まれば ゆるしてくれるよ



あい
愛にあふれてるのよ



3. かみさまがよろこばれるのは、どんな人ですか?

- () わるいとわかって、あやまらないで、わらってごまかす人 ^{ひと}
- () わるいとわかったら、すぐにあやまる すなおなところの人 ^{ひと}
- () 「まちがってるよ」といわれると、あれこれいいわけする人 ^{ひと}



いのりましょう! 「かみさま、わたしたちをあいして、ひとりもほろ
びないように、くいあらためるのを まっていてくださることをかんしゃ
します。イエスさまのおなまえによっていのります。」

中級

第1課 逃げ出したヨナ



1. おはなしを思い出そう！□の中にことばを入れてね。

①ヨナのおしごとは（ だいく りょうし よげんしゃ ひつじかい ）でした。

②かみさまはヨナに「大きな □ に行ってわたしのことばを伝えなさい」といいました。

③ヨナはかみさまの前から □ て □ に行かずに □ に行きました。

④かみさまはヨナを見て □ をおこされ、ふねが □ になりました。

⑤ヨナはうみになげこまれ □ にのみこまれました。

2. ヨナはどうしてかみさまのまえからにげだしたのでしょうか？

3. きょうのみことばを書きましょう。

あなた とは かみさま のことです。かみさまのまえにわるいことを つみ といいます。かみさまは つみ がとてもきらいです。 つみ をおかすとにげだしたくなるのです。

4. しかくの中から つみ をえらんでまるでかこもう！

せいしょをよむ だれも見ていないところでまんびきする うそをつく
おかあさんのいうことをきかない おてつだいする ともだちをにくむ
きょうかいに行く いじわるをする かみさまをしんじない

5. ヨナはかみさまのことばをきかずににげるという つみ をおかしました。みんなは つみ をおかしたことはないかな？ かんがえてみよう。



中級

第2課

悔^くい^{あらた}めたヨナ



1. おはなしを思い出そう！ 下の□の中からことばをえらんでね。

- ① うみになげこまれた □ は、おぼれて □ になりました。
- ② かみさまがたすけてくれたのでヨナはしなずに □ にのみこまれました。
- ③ ヨナはかみさまのあいを □ て、「これから □ のことばどおりにします。ごめんなさい。」と □ のおいのりをしました。
- ④ かみさまはヨナの □ をきいて □ をゆるしてくれました。

つみ	さかな	ヨナ	おいのり	しにそう
	くいあらため	しんじ	かみさま	

2. みんなの心の中の つみ はどうしたらゆるしてもらえるかな？ 2つえらんでね。

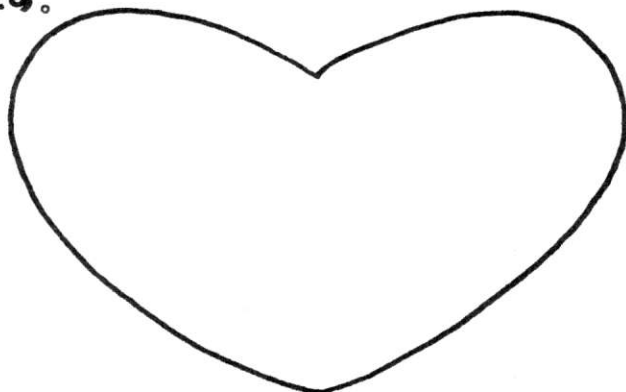
べんきょうをがんばる	くいあらためのおいのりをする
たくさんけんきんする	いっしょうけんめいよいことをする
わたしたちのつみのためにしんでくださったイエスさまをしんじる	

3. きょうのみことばを書きましょう。

☆ イエスさまをしんじて、つみをくいあらためるなら、どんなにたくさんのつみがあっても、わたしたちの心はまっ白な心にしてもらえるのです。

4. くいあらためのおいのりをしよう！

ハートの中にみんなの心の中のつみを
ゼーんぶ書いて、先生といっしょに
おいのりをしよう。



*** つみをとりのぞいてわたしの心をゆきよりも白くしてください***

中級

第3課

愛を知ったヨナ



1. おはなしを思い出そう！

①ヨナはつみぶかい の人たちが助けられたのを見て ました。

②かみさまはあつくてくるしいヨナに の木をくださいました。

③ヨナにとって大切な木はかれてしまい、ヨナはとても ました。

④かみさまはニネベの人たちを ているから、ほろぼさずに
られたことをおしえてくださいました。

⑤ヨナは、かみさまは のことも のこともおなじように
あいしておられることがわかりました。

とうごま ヨナ おこり あいし ニネベの人 かなしみ たすけ ニネベ

2. きょうのみことばを書きましょう。

☆かみさまは大きくてりっぱな心ではなく、小さくてこなごなにくだかれた心を
よろこんでくださるのです。

3. くだけたたましいとはどんな心でしょうか？4つえらんでね。

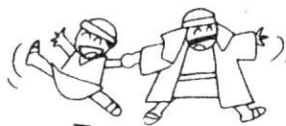
- ・ぼくはえらいんだという心
- ・わたしのつみをゆるしてくださいという心
- ・かみさまのあいをありがとうという心
- ・わるいやつはゆるさないという心
- ・よわいわたしをたすけてくださいという心
- ・あのおともだちもゆるしてあいしますという心

4. ヨナの心はくだけたたましいでしたか？

みんなの心にもヨナとおなじ心がないかな？



5. かみさまはヨナもニネベのひとも、みんなも、みんなのおともだちも、みんなを
あいしておられます。「きれいなおともだちも、ゆるしてあいする心を下さい」とおいのりし
ましょう！

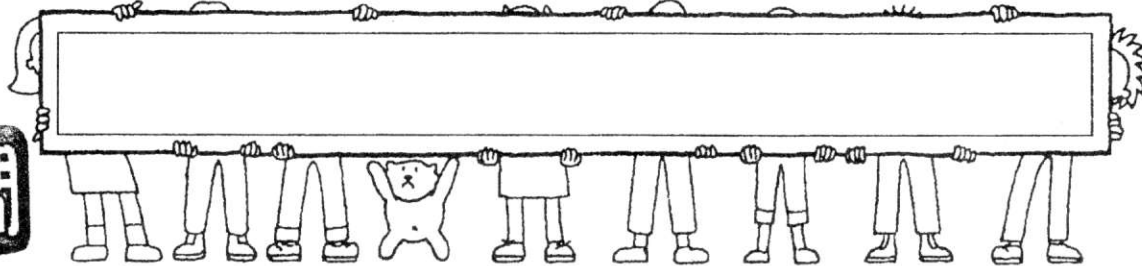


上級 第一課 逃げ出したヨナ

聖書 ヨナ書 第1章 暗唱聖句 詩篇 51篇 4節

☆一番下の聖句をこのわくの中に書き写して暗唱しましょう！

氏名



①あなたは今までに、学校の先生や家族など、だれかから、何かをしなさい、と言われて、いやだなあと思って、言われた通りにしなかったことがあるでしょうか。その時のようすを思い出して書いてください。

②主から「ニネベに行け」と言われたとき、ヨナはどうしましたか。1章3節の中に二回くりかえされている言葉を使って答えてください。

「

」タルシシ(ユ)に向かって逃げようとした。

③そこで主は、どんなことをなさいましたか。

④ヨナは、このはげしい嵐がおこったのはだれのせいかわかっていましたか。⇒12節を読んでみよう。

*はい、「」のせいだとわかっていました。 *いいえ、だれのせいかわかってませんでした。

⑤主は、どんな気持ちで激しい嵐をおこされたのでしょうか。考えてみてください…。

⑥暗唱聖句をもう一度見てください。…では、ヨナがした「悪いこと」とは何だったのですか。

⑦あなたは、主の言葉に従わなかったことがありますか。あるいは、今、「自分にとっていやなことなら、主の言葉に従いたくない」という気持ちがありますか。もしそうなら、あなたはどうすべきでしょうか。

♪ わたしは…あなたの前に悪い事を行いました。

※ 私は…あなたの^{おんめ}御目に悪であることを行ないました。

☆ わたしは…^{おんめ}御目に^{あくじ}悪事と見られることをしました。(6節)

上級

暗唱聖句 詩篇 51 篇 7 節

氏名



♪口語訳聖書 ※新改訳聖書 ☆新共同訳聖書

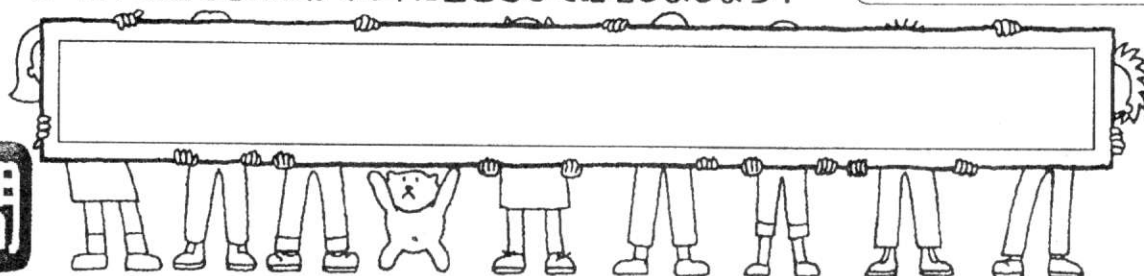
上級 第三課 愛を知ったヨナ

聖書 ヨナ書 第4章 暗唱聖句 詩篇 51篇 17節

☆一番下の聖句をこのわくの中に書き写して暗唱しましょう！

氏名

質問



①まず、ヨナ書 3 章 4 節を読み、次に 1 章 2 節を読んでください。主がニネベの町を滅ぼそうとされたのはなぜですか。

②ニネベの人々は、ヨナの言葉を聞いて、どんなことをしましたか。

③主は、ニネベの人々のようすを見て、どうなさいましたか。

④暗唱聖句をもう一度見てください。…では、悔い改めたニネベの人々のたましいは、主なる神様の目から見ればどうだったのでしょうか。それなら、あなたのたましいは彼らのと似ていますか、ちがいますか。

⑤主がニネベの人々に災いをくだすのをおやめになったのは、主がどのようなお方だからでしょうか。ヨナ書 4 章 2 節のヨナのことはばを読んで、答えてください。

⑥「とうごま」が枯れたとき、ヨナはどうしましたか。

⑦4 章 10,11 節を読んでください。…ニネベの町とそこに住む人々を「惜しまないでいられようか」とおっしゃる主によって、ヨナはどんなことを知らされたと思いますか。

主は、どんなに悪い人々でも、____ 改めたなら、^{ゆる}赦してください、

ほろぼさない。それは主が本物の____で人々を____しておられるからだ。

⑧ニネベの人々を惜しむ主の愛は、あなたにも注がれていますか。もしそうなら、それは何によって分かるのでしょうか。

⑨その主の愛に應えてあなたができることは何でしょうか。

♪ 神の受けられるいけにえは砕けた魂です。

※ 神へのいけにえは、砕かれたたましい。

☆ しかし、神の求めるいけにえは打ち砕かれた霊。(19節)

♪口語訳聖書 ※新改訳聖書 ☆新共同訳聖書

